

門司港駅が創建当時の姿に甦ります！

鉄道駅として初の国の重要文化財に指定された門司港駅舎の保存修理工事については、平成 24 年 9 月に着手し解体調査・工事を進めてまいりましたが、修理完了後の駅舎復原^(※)方針及び今後のスケジュールについてお知らせいたします。

※「現存する建物について、創建以後に手を加えられた部分を原型に復す」の意で、「復原」と表現しています。

1. 駅舎復原方針について

- ・ 創建当時の駅舎の姿に復原することを基本とします。
- ・ 駅舎正面に設置されている時計や西側の通路上家等については、その歴史的価値を尊重し、そのまま残すこととします。
- ・ 修理後の駅舎の利用計画については、修理前と同様、駅として使います。



2. 今後のスケジュール

平成 29 年度末までの工事完了を予定していましたが、耐震補強工事等の実施により工事完了予定時期を以下のとおり見直します。

- ・ 平成 30 年秋頃を目処に、現在駅舎を覆っている素屋根の解体を終るとともに、現在仮駅舎にて営業している駅機能のみを新駅舎 1 階に切り替える予定です。
- ・ 平成 31 年春頃を目処に、2 階を含めた駅全体の供用開始を予定しています。
- ・ 連絡上家屋根葺替工事等を含めた全体工事の完了は、平成 31 年度を予定しています。

3. その他

- ・ 駅開業に向けたイベント等については、今後北九州市と協議を進めます。詳しい内容は決まり次第、別途お知らせします。

○ 駅の主な歴史

明治 24(1891)年	初代門司駅開業
大正 3(1914)年 2月1日	2代目門司駅（現在の駅舎）にて営業開始
大正 7(1918)年	駅正面に九州で初めての電気時計設置
昭和 4(1929)年	正面大庇設置
昭和 6(1931)年	西側上家等増築
昭和 17(1942)年	関門鉄道トンネル開通にあわせ、門司港駅に改称
昭和 63(1988)年 12月	国重要文化財指定
平成 24(2012)年 9月	保存修理工事着手

○ 写真



大正 3(1914)年頃（建設当初）



修理工事着手前